

新年交流会

1 月6日に毎年恒例の、新年交流会を行いました。会場に集まると、利用者同士や職員と新年のあいさつをしたり、お正月中にあった出来事などを話す利用者もいて、笑顔で溢れていました。

入り口には、職員手作りの鳥居を置き、利用者全員が書いた絵馬を窓一面に張り、お正月を題材にした貼り絵も飾



盛り上がった新年交流会

るなど、お正月らしい雰囲気になりました。

交流会は、毎年恒例のお琴の演奏から始まります。お琴の先生と利用者2人で、「七つの子」「まりととのさま」「千本桜」の3曲を演奏。3曲の中でも今回初めて披露した「千本桜」では、真剣な様子で演奏する表情が格好良く、演奏が終わると緊張がほだけ、笑顔も見られるなど、会場からは演奏者に大きな拍手が送られました。

演奏会終了後は、みんなが一番楽しみにしている食事会です。乾杯と同時に始まり、生寿司、オードブル、デザートなど、みんな笑顔で食事を楽しみました。

昼食後は、新年カラオケ大会の始まりです。初めはゆったりとリラックスムードで始まりましたが、中盤からは、ムードが一転。マラカスやタンバリンを持ち、合いの手を

入れる人や一緒にステージに上ってデュエットをする人、替え歌を歌う人など、後半につれてかなりの盛り上がりを見せていました。最後は万歳三唱で新年交流会の幕を閉じました。

利用者からは、「来年はなにやるの」「来年も楽しみたいねー」とすでに来年の交流会を楽しみにしている人もいました。(T・S)

ふれ合う心の文化広場

3月10日「第34回ふれ合う心の文化広場」で利用者5人、職員3人の計8人がお琴の演奏を披露しました。

曲目は何度も披露した経験のある「さくら」と初めて披露する「はなかげ」の2曲。

今回は、洞爺湖町文化団体協議会創立55周年で、たくさんのお客さんがいる中での演奏で緊張しましたが、練習の



ふれ合う心の文化広場でお琴を演奏

成果を披露することができました。

短い練習時間の中で講師の指導のもと、何度も何度も練習を重ねてきました。難しいメロディもありましたが、何度も弾くことでコツを掴み、弾くことの楽しさを毎回感じています。また、演奏後のお客さんの拍手を聞くとホッとした気持ちになり、また次も演奏を披露できるように頑張ろうという気持ちになりました。

当日は、普段できないお化粧をし、少しおしゃれな格好で演奏会に挑戦。お化粧した

利用者は雰囲気も大人びて、とても喜んでいました。

観客席には、施設長をはじめ、職員や他の利用者の人も見に来ていて、演奏後には「上手だったよ」と褒めてもらい、みんな笑顔で喜びました。

利用者の一人は本番で「ちよつと失敗しちゃった」と失敗したことを気にしている様子でしたが、練習の成果は発揮できていて、とても上手に弾けていたことを伝えるえると笑顔になり「次も頑張ろう」と意気込んでいました。

お琴は指使いが難しく、奥深い楽器ですが、たくさんの人に聞いてもらい、「よかったよ」と言ってもらえるように頑張っていきたいです。

初めは簡単な童謡を弾いていましたが、段々難しい曲目にも挑戦し、意欲的に稽古に励んでいることもうれしく感じます。今年は秋に2回、演奏を控えているので、また喜んでもらえるような演奏が披露できるように利用者とともに練習に励んでいきたいです。(H・N)